

墨水会だより

(旧府立第七中学校) 都立墨田川高校全日制同窓会 発行責任者 井上 常一



撮影 井上 常一

今回の表紙写真は、昨年ご当地人気キャラとして大ブレイクした「くまモン」の熊本県中部、矢部町にあるアーチ式石橋『通潤橋』の姿を掲載します。

通潤橋は文字どおり橋の内部に水の流れる水路を設けた一種の水道橋であります。

熊本県には江戸時代後期に造られた石積みの石橋が数多くあり、日本全国に現存するアーチ式石橋の90%以上が九州にあります。

そしてその半数近くの、250基もの石橋が熊本県に現存しております。

写真の橋は九州山地の奥に源を発し、県の中央部を流れ有明海へと注ぐ緑川にかかる名橋です。

嘉永七(1854)年に完成したこの橋は、矢部手永惣庄屋、布田保之助によって造られ、水の豊富な台地から川を隔てた水の少ない田畑への水源補給のためと、山を隔てた集落住人の方々の通行の利便性を計った通路・通水両用型の橋梁で、幅6.3m、総延長75.6m、高さ20.2m、アーチ径27.9m、通水石管延長126.9m、開田面積100町歩というかなりの規模を持つ素晴らしい石橋であり、完成には1年8カ月も要しています。現在では灌漑用水としての役目を終え、橋からの放水は

年一度の9月上旬に行うそうです。

なお下に流れる緑川に水を放水する作業は、町の職員の方が通潤橋まで出向き開栓するのです。

開栓は、石橋の中心部に1m四方の穴があり、導水管を流れる水を橋の両側に空いている放水口から木栓を抜き放水する仕組みになっています。

この放水口は大雨などで水量が急増加したような場合と、通水管内にゴミが溜るので、放水の圧力によって管内の清掃を行うために開栓し、水を放出したものであります。

係りの職員の方が木製で出来た素朴な栓を抜くと水が勢い良く落下放水を始めます。

苔むした風格のある石橋から弧を描いて橋の両側に落下する水の様は真に見事な光景です。

土木機械や精密測量など出来ない時代にこのような立派な建築物を造ることが出来た先人の知恵と技術力そして努力には敬服します。

この写真は、筆者が地元の知人にお願ひし、矢部町のご好意で特別放水を行って戴いた時の通潤橋の雄姿です。



ご挨拶

墨水会会長 墨田川三回

井上 常一

同窓諸兄姉の皆様には、益々ご健勝にて社会の各分野でのご活躍、真にお慶びに堪えない次第です。

同窓会の会報「墨水会だより」も回を重ね今回は第21号の発行となります。

昨年は母校の90周年を記念して、20頁の記念号を発行しました。

今号は通常発行に戻り16頁の会報として会員の皆様にお届け申し上げる次第です。

それではまず母校の現況について申し上げます。

進学重視型単位制高校として、他の都立校に先立ち一足早くその受け入れを承諾し、地盤沈下した都立校の大学進学率向上に務めた母校でしたが、単位制高校以降に着任された菊地先生、有賀先生、渡辺先生、大沢先生と歴代校長先生の懸命なる改革努力にも拘わらず、進学率の向上には特段の変化が現れず墨水会でも憂慮しておりました。

しかし、平成20年4月に着任された第21代校長佐藤光一先生が「文武両道」を提唱され、伝統校である墨田川高校の新しい歴史を作らるべく急ピッチに学校の改革を進められました。

その結果はまず「武」に現れ、水泳のオリンピック出場にも手の届く程の実力ある超高校級の選手が輩出され一挙全国に墨田川高校の名がとどろきました。

そのため低迷していた本校への応募率も向上し、偏差値上位の優秀な生徒や、スポーツオ

能のある生徒も多数応募するような学校になり、変化が現れました。

しかし進学率の向上はなかなか難しく、戦後の最盛期150名の国立大学合格者を出していた時期を思うと、現在の10名程度の状況は当然改善しなくてはなりません。

改革の口火をつけた佐藤先生の後任である第22代学校長の柴田 哲先生は、昭和48年卒業、高校25回の本校OBで、墨水会々員でもあります。

母校90年の歴史の中で、本校出身のOBが校長先生になられたのは初めての、真に有難たい人事であり母校にとっても真に幸運であると思います。

佐藤先生の後を引き継いだ柴田先生も佐藤先生同様墨田川高校の現状を考察され、先生独自の「文武不岐」との精神に基づき改革を提唱され、一朝一石には計れない大学合格実績の向上に、具体的な取組みとして、生徒に学力「体力」「気力」そして「協力」という四つの人間力をつけさせることに重点を置き、学校の運営を計る方針を打ち立てられました。そしてその考えを基に、着々と進学率向上の努力が行われております。

その結果は今後の入学率に如実に現れることと確信しております。

取組みの具体的内容については昨年の会報にも詳細に記載いたしましたので省略させていただきます。

部活動では別記いたしましたように文化

部運動部共に目覚ましい活躍を続けており、進学勉強で多忙の中良くこれだけの成績を出せるものと感心しております。

特に吹奏楽部の活躍は素晴らしく、東京都の吹奏楽コンクールではほとんど毎年金賞を受賞されています。

学校行事では四月の入学式に始まり、五月には体育祭、九月には七高祭(文化祭)、二月は合唱祭、三月は卒業式と続きます。

これらの学校の催しには墨水会からも役員が出席し、生徒諸君の日頃の活躍を拜見しております。また学校行事ではないのですが、毎年卒業式終了後の三月下旬に葛飾シンフォニーヒルズにて吹奏楽部のスプリングコンサートが開催され卒業する部員も参加して大変賑やかで、素晴らしい演奏会が開かれます。OB各位のご来場をお待ちいたします。

さて次に年間における会の活動を順を追って申し上げます。

墨水会の事業目的の第一義は母校発展のための側面的な支援であることに尽きると思います。そのために卒業生の皆様に卒業と同時に会員になつて戴く訳です。

同窓会のこの主旨は、学校が存続する限り、終生OB同士の交流は勿論、母校の支援のための事業として続くと考えます。

人が作る我々の社会は、知力や努力も当然ですが、人とのつながり即ち人脈が重要な要素になる場合が多いと思います。特に本年卒業される皆様には、将来社会活動の場で、墨田川高校の出身者として必ず有益な出来事に遭遇することと思っております。

先輩、同期、後輩のきずなは、た安くは切れません。そしてこのきずなを大切にし母校を末長く応援して下さい。

次に年間行事についてご報告致します。一月十二日墨田川高校PTA美汀会の新年を祝う会に井上会長、海谷顧問他各副会長、会計、監査など九名の役員が出席し、柴田学校長

他職員の先生方、美汀会、墨汀会の役員の皆様と向島文化センターにて新年を祝い、今年の活動について、相互の協力を誓いました。

一月上旬には会報20号の原稿締切りを行い、通常より早い発行を行うための編集作業を終了しました。

会報は予定通り二月下旬の発行となり四月十二日に開催した本年度第一回の常任幹事会の際、各期の常任幹事の諸氏を通じて配布しました。

二月四日には学校で開催された二十四年度第三回学校運営連絡協議会に墨水会からは、井上、清沢の両委員が出席し学校の現状を伺い、墨水会の考えを申し上げました。

九十周年の記念事業は三月末に刊行された記念誌の出版を以て、諸行事を無事終了し、次に訪れる百周年を目前に準備を行うことになりました。

三月九日第65回卒業式に参列し、私が墨水会を代表して317名の卒業生の諸氏にご挨拶を申し上げます。

また四月九日には、25年度の入学式が挙行され324名の新入生が入学されました。

墨水会からは会長他役員数名が出席し、ご祝意を申し上げます。

常任幹事会は四月開催の他七月十一日、九月三日、十一月十日の計四回開催し、総会の開催計画、七生、楽水二寮の運営、管理、保全計画などについて検討し、最終十二月の幹事会では終了後、柴田校長先生始め墨水会OBの先生方、美汀会並々会長他役員の方、墨汀会役員の方々をお招きし、本年の謝意と常任幹事のご協力に感謝いたし、年忘れの懇親の一時を過ごしました。

また十月四日には日比谷公会堂にて第21回東京校歌祭が開催され井上会長ほか四十数名の会員が参加し校歌と応援歌を披露しました。その後午後四時より上野東天紅にて第91回墨水会総会を開催しました。

本年度は役員改選の年でありましたが、井上会長が前海谷会長より引継ぐ際、井上の都合にて一年間の猶予期間を戴いたため、今回会長職を一年間延長し、明年度改選することを総会で承認戴きましたので、本年度は現行役員の体制にて行うことに決定しました。

十月四日同窓会総会の当日は日比谷公会堂で行われる第21回東京校歌祭の開催日でもありましたので、四十数名のOB各位が公会堂に参集し、校歌と応援歌をじっくりと歌いました。

その後校歌祭に参加した会員は東天紅の総会に駆け付け、午後五時の開会には揃って出席しました。

当日は総会議事終了後、柴田校長先生に講話をお願いいたし、懇親会に入りました。

本年の総会は昨年の九十周年の後というところもあって、毎年総会より出席者の数が少く少々淋しい総会となりましたが、総会の終了後に行われたアトラクションには、今年も母校吹奏楽部のOBのメンバーに出演して戴き素晴らしい演奏を聞くことが出来ました。

この他墨水会には大事な仕事があります。一般財団法人組織にて運営する山と海の二寮の管理と経営の問題です。

昨年度の財団法人の活動につきましては、詳細別記しましたので昨年の活動についてはその項をご覧くださいと思います。

結びに会員の皆様には墨水会の運営に深くご理解ご協力を戴き、特に経済が低迷し景気が良くない時期を通して、会の運営に度々ご寄付を頂戴し真に感謝に絶えない次第であります。

誌上を拝借し会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

本年も母校のため会員皆様の格段のご協力をお願い申し上げます、私のご挨拶といたします。



進学校としての改革と復活

校長 墨田川25回 柴田 哲

墨水会の皆様方には、日頃より本校の教育活動への御理解、御支援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、部活動の全国大会への生徒の参加補助に対し、多大な御支援を賜りました。重ねまして、御礼申し上げます。

さて、本校は平成二十二年より新しいタイプの「進学重視型単位制高校」として、また、平成十九年度から「進学指導推進校」として、かつての進学校への復活に向け、再出発しています。その中で、昨年の十月下旬に文部科学省から、新たな大学入試改革に関する提言がなされました。今回の会報紙面をお借りしまして、現在の本校の進学指導に関する考え方や具体的な方策、さらに、大学入試センター試験廃止後の対応等について、述べさせていただきます。御理解をさらに深めていただきたいと思います。

現在、国公立大学を受験するには、推薦・AO入試と一般入試の大きく二通りの方法に大別できます。四十数年前に私が大学を受験した頃は、一期校と二期校の二回の受験機会がありました。その後、共通一次試験の導入、そして、大学入試センター試験の導入となり、現在に至っております。

この大学入試センター試験は、国立大学協会からの学力低下対策の一環としての提言を受け、国立大学志願者に対し平成十六年度の大学入学試験からセンター試験の五(一)教科七科目受験が原則となりました。

そして、平成二十一年度の入学試験では、九十六%の大学がセンター試験五(一六)教科七科目の受験を課しています。現在、文系では国語・地理歴史・公民・数学(一)・数学(二)・理科・英語が標準型であり、理系は国語・地理歴史と公民から一科目・数学(一)・数学(二)・理科二科目・英語が標準型となっています。

このような大学入試改革は、本校の国公立大学への合格者の増減にも大きく影響を与えています。「進学重視型単位制高校」としての一期生の国公立大学の合格者数は、二十一名でしたが、大学入試センター試験が五(一六)教科七科目受験となった二期生から落ち込み、試行錯誤しながら、進学指導の改善を図ってきました。

私は、平成二十三年度に校長として本校に着任し、本校生徒が目標とする大学(ターゲット)大学を設定し、その大学に合格できる学力を身につけるための方策・内容を構築し、教職員が一丸となって取り組むことが重要であると考えました。

このターゲット大学は、大学受験偏差値六十と言われている千葉大・埼玉大・学芸大・電通大・農工大・横浜国立大等の国公立大学と学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政等の難関私立大学としました。また、これらのターゲット大学に合格するための目安として、一年次から「大学入試センター試験」レベルの系統的数値目標を設定し、授

業や教育活動を展開し、一年次から「大学入試センター試験同日模試」を全員受験しています。

その結果、国公立大学合格者の復活の兆しが見え始め、昨年度は十一名の国公立大学合格という実績を出すことができました。

このような教育活動を展開している時、昨年の十月下旬の文部科学省からの新たな大学入試改革という提言がなされました。新聞やマスコミ等では「大学入試センター試験の廃止」が大きく取り扱われていましたが、本校にとっては追い風であると思います。

提言の具体的な内容は、現在の大学入試センター試験が「到達テスト(基礎レベル)(仮称)」と「到達テスト(発展レベル)(仮称)」の二つの試験に変わることです。まだ仮称ですので詳細は分かりませんが、前者の「基礎レベル」の試験は推薦入試やAO入試において活用する、後者の「発展レベル」の試験は一般的な大学入試において活用する、とあります。そして、難易度的には、前者の「基礎レベル」の試験はかなり易しくなる、後者の「発展レベル」の試験は現在の大学入試センター試験よりも若干易しくなり、一点刻みではなく、段階で評価するものとあります。

本校では、現在の大学入試センター試験レベルの授業を展開しています。そして、骨太の学力を身につけさせるために、二年次生まで文系・理系を分けずにカリキュラムを実施しています。したがって、新たな大学入試が始まったとしても、十二分に対応できます。

結びに、今後、百年、百五十年と本校が更に発展し続けるためには、今まで以上に教職員が一丸となり、生徒の力を高め、かつての進学実績に迫っていくかなければなりません。墨水会並びに美汀会をはじめ、関係各位の皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げます、校長の挨拶といたします。

平成25年度

墨水会事業報告

平成24年総会(10月6日) ～平成25年10月4日



墨田川10回 難波 直人

1. 第90回墨水会総会

平成24年10月6日 於 すみだ産業会館
式典と祝賀会の中の50分間で開催されました。狭い会場がいっぱいになった約60名の出席者のなか、会長挨拶の後議事に移り、事業報告、会計報告、監査報告が例年通り行なわれ、あわただしい会議でしたが無事終了し、その後みなさん祝賀会場へかけつけました。

2. 第20回校歌祭

平成24年10月6日 於 日比谷公会堂
今年は祝賀会を終えた人達が多数参加され、演台にあがれない人達が出るなか、50名以上の会員皆様の大きな声の日比谷公会堂にひびき渡りました。

3. 役員会

平成24年11月22日 於 東天紅
12名の出席者があり、90周年式典、祝賀会、記念誌、墨水会総会、校歌祭について、反省点を含め色々話し合われました。

4. 広報委員会

平成24年11月28日 於 同窓会室
第1回目の会合に8名の委員が出席し、墨水会だより20号発刊にむけて話し合いが行なわれました。今回は特別号という事で20ページのデラックス版とする事とし、会員のみなさんの協力を得て多くの記事

を集める努力をする事にしました。
又今回も(株)サラトに発刊のお願いをする事になり見積りをお願いしました。

5. 第1回常任幹事会兼忘年会

平成24年12月6日 於 東天紅
25名の出席者があり、90周年行事についての反省や今年度の総会についての話し合いが行なわれ、その後懇親会に移り2時間半に渡った会を終了しました。

6. 広報委員会

平成25年1月16日 於 同窓会室
(株)サラトの担当者もまじえ、9名の委員と第2回目の会議が行なわれ、記事の集まり状況等について話し合いが行なわれ、割り付けを行いました。

7. 広報委員会

平成25年1月16日 於 同窓会室
7名の委員が出席し、第3回目の委員会が行なわれ、今までに集まった原稿の読み合せと、2回目の割り付けを行いました。

8. 広報委員会

平成25年2月4日 於 同窓会室
7名の委員が出席し、第4回目の委員会が行なわれ、原稿の割り付けと校正を行いました。

9. 広報委員会

平成25年2月14日 於 同窓会室
5名の委員が出席し、第5回目の委員会が行なわれ、(株)サラトから送られてきた墨水会だより20号の最終校正を行いました。

10. 役員会

平成25年3月5日 於 曳舟文化センター
14名の出席者があり、(一財)七星会への寄付について、又学校支援の寄付について、今年度の総会について、七星会についての話し合いが行なわれました。

11. 第2回常任幹事会

平成25年4月12日 於 会議室
31名の出席者があり、(一財)七星会の運営について(理事、井上会長、谷澤・清澤副会長、評議員、海谷顧問、泉妻・竹鼻副会長の選任)話し合われました。又今年度の総会、校歌祭についての報告等がなされ、最後に墨水会だより20号を各期の常任幹事に配って散会しました。

12. 役員会

平成25年5月8日 於 向島生涯学習センター
90周年記念誌印刷費の件や90周年に対する墨水会の寄付について、及び、決算について話し合われました。

13. 第3回常任幹事会

平成25年7月11日 於 墨田川高校多目的ホール
本年度の総会、校歌祭について討議がなされ、その後90周年記念事業終了の報告、全国大会出場を応援する会についての報告があり、役員改選の件について話し合われました。

14. 第4回常任幹事会

平成25年9月3日 於 墨田川高校多目的ホール
29名の出席者があり、総会、懇親会、校歌祭について報告が行なわれ、又役員改選についての話し合いの後、二寮についての報告があり、副校長による校内活動について報告がなされ、最後に総会の往復葉書を常任幹事の皆様に配布し散会しました。

15. 役員会

平成25年9月27日 於 東天紅
6名の役員が出席し、総会の役割分担

等について話し合わせ、その後東天紅の担当者として最終打ち合わせを行いました。

その他
七生寮視察(閉寮)

[平成24年10月18日]

谷澤・清澤副会長参加

90周年実行委員会

[平成24年10月22日]

井上会長、清澤副会長出席

楽水寮視察(夏期清算)

[平成24年10月25日]

谷澤、清澤副会長参加

90周年実行委員会

[平成24年11月09日]

井上会長出席

学校運営連絡協議会

[平成24年12月14日]

井上会長、清澤副会長出席

美汀会新年会

[平成25年01月12日]

井上会長はじめ9名参加

学校運営連絡協議会

[平成25年02月14日]

井上会長、清澤副会長出席

墨水会だより記念号(20号)完成

[平成25年03月05日]

3千部

墨田川高校卒業式

[平成25年03月09日]

井上会長、清澤副会長出席

墨汀会総会

[平成25年03月16日]

井上会長、谷澤副会長出席

七星会理事会(決算理事会)

[平成25年04月23日]

井上会長、海谷顧問、

谷澤・清澤副会長、宮本監査出席

楽水寮視察(契約)

[平成25年04月24日]

井上会長、谷澤・清澤副会長参加し、寮管理人網代氏と年間委託の契約を行う

- 〔平成25年05月14日〕 七生寮視察(契約) 海谷顧問、谷澤・清澤副会長参加
- 〔平成25年05月25日〕 美汀会歓迎会 井上会長はじめ5名参加
- 〔平成25年06月15日〕 七生寮視察(補修工事) 海谷顧問、谷澤副会長参加
- 〔平成25年06月18日〕 学校運営連絡協議会 清澤副会長出席
- 〔平成25年06月19日〕 楽水寮視察(修理完了点検・会計清算) 谷澤・竹鼻・加藤副会長参加
- 〔平成25年06月26日〕 七星会理事会・評議委員会 井上会長、海谷顧問、泉妻・竹鼻・谷澤・清澤副会長、宮本監査出席
- 〔平成25年06月27日〕 90周年実行委員会 井上会長
- 〔平成25年07月10日〕 楽水寮視察(本年度夏期運営打ち合せ) 横井・竹鼻・清澤副会長出席
- 〔平成25年07月13日〕 七生寮視察(補修工事点検) 井上会長、谷澤・清澤副会長参加
- 〔平成25年07月22日〕 七生寮視察(寮管理者代行) 谷澤副会長参加
- 〔平成25年07月22日〕 七生寮視察(寮管理者代行) 谷澤・加藤・清澤副会長、齊藤常任幹事参加
- 〔平成25年08月25日〕 七生寮視察(閉寮作業) 井上会長はじめ18名参加
- 〔平成25年09月19日〕 七生寮視察(修理点検) 谷澤・清澤副会長参加
- 〔平成25年09月23日〕 楽水寮視察(夏期清算) 谷澤副会長参加

平成24年度 墨水会会計報告

開始残高

平成24年7月1日

1 資産の部	(単位：円)
定期預金(一般口座)	13,000,000
〃 (寄付口座)	3,000,000
普通預金(一般口座)	4,305,938
〃 (寄付口座)	3,329,638
現金	0
在庫品	3,034,500
資産の部合計	26,670,076
2 負債の部	
借入金	12,038
負債の部合計	12,038
3 繰越の部	
繰越金	25,793,821
前期剰余金増加額	864,217
繰越の部合計	26,658,038

閉鎖残高

平成25年6月30日

1 資産の部	(単位：円)
定期預金(一般口座)	13,000,000
〃 (寄付口座)	3,000,000
普通預金(一般口座)	5,285,070
〃 (寄付口座)	1,883,992
現金	306,525
在庫品	1,907,500
資産の部合計	25,383,087
2 繰越の部	
繰越金	26,658,038
当期剰余金増加額	△1,274,951
繰越の部合計	25,383,087

監査報告書

墨水会定時総会議長 殿
平成25年10月5日

平成24年度墨水会収支計算書及び諸帳簿関係書類を監査した結果、その数字は正確であり、かつ正当であった。各帳簿、領収書、証拠書類の保存整理も整然としてあったことを御報告申し上げます。

墨水会
会計監査 宮本雄司
会計監査 石井温

収支計算書 (平成24年度)

平成24年7月1日から平成25年6月30日まで

1 収入の部	(単位：円)	
科目	金額	摘要
24年度卒業生入会金	2,560,000	320人×8,000円
名簿代(24年度卒)	1,280,000	320人×4,000円
寄付金	2,063,655	154名 2団体+7/17通帳入金分
名簿販売	9,000	2冊
利子	39,591	
当期収入合計(A)	5,952,246	

2 支出の部

科目	金額	摘要
墨水会会報費	750,330	3,000部
総会費	0	
名簿作成費	105,400	小冊子350冊
校歌祭費	143,130	参加費10万円等
通信費	333,335	切手代、郵送代
会議費	447,515	常任幹事会、広報委員会等
寮関係費	23,837	七生寮視察補助等
渉外費	110,850	美汀会、墨汀会等
事務委託費	685,800	小荷田さん・谷澤さん給与・交通費
寄付金	3,500,000	墨田川高校90周年、(一財)七星会
当期支出合計(B)	6,100,197	

3 当期剰余金の部

科目	金額	摘要
当期収入合計(A)	5,952,246	
当期支出合計(B)	6,100,197	
当期収支差額(A)-(B)	△147,951	
期首在庫品(C)	3,034,500	名簿867冊
期末在庫品(D)	1,907,500	名簿545冊
当期剰余金(A)-(B)-(C)+(D)	△1,274,951	前期剰余金864,217

繰越金計算書

前期繰越金	26,658,038	
当期剰余金	△1,274,951	
次期繰越金		25,383,087

以上のとおり御報告申し上げます。

平成25年10月5日

墨水会 会長 井上常一
墨水会 会計 赤津吉延
墨水会 会計 谷澤尚樹

学校運営連絡協議会について

墨田川17回 清澤 健一

学校運営連絡協議会は、文科省の指導で学校運営に関して外部の意見であるPTAや地元の見解を聞いて学校運営に活かしていこうとの目的で全国にて行われています。墨田川高校では、PTA、自治会、元校長、地元財界人、地元中学校長、同窓会、教育専門家の委員と学校側からは、校長、副校長と教務、生徒指導、進路指導、総務の各部の主幹教諭から構成され、年3回開催されています。同窓会から井上会長と私の2名が参加しています。

活動点検アンケートについての結果報告があり、習熟別学習が学習ペースにあっている。質問や相談できる場所があるなど生徒、父母、先生から回答がありました。そして勉強も部活もがんばって両立させたいと考える生徒が45%から58%になり、国立大学へ進学を意識している生徒が増加し高1年の4月で80パーセントあったとのことです。

各委員との討論では、中学や塾での評判が向上し、大学入試で実績を上げることができた方々とのことでした。

なる挨拶、遅刻、服装の指導を継続して行ってきた結果、地元からも評価を受け、皆勤生徒が各クラスに大勢いること、部活が活発で好成績をあげていること、全国模試の結果も上昇していること、墨田川高校への受験者数が増え優秀な生徒が多く入ったことなどが報告されました。

又、毎年行っている学校教育

遅刻者数 (H25年度 2年生)										
月別	A	B	C	D	E	F	G	H	計	合計
4月	2	1	4	3	2	12	5	2	31	31
5月	1	1	5	5	6	19	16	8	61	92
6月	2	6	3	11	8	14	1	12	57	149
7月	3	2	1	1	4	12	5	3	31	180
9月	9	6	2	20	10	14	14	5	80	260
10月									0	260
11月									0	260
12月									0	260
1月									0	260
2月									0	260
3月									0	260
累計	17	16	15	40	30	71	41	30	260	

遅刻者数 (H24年度 1年生)										
月別	A	B	C	D	E	F	G	H	計	合計
4月	4	2	1	2	2	0	5	2	18	18
5月	6	7	7	2	4	0	6	14	46	64
6月	4	17	5	7	14	1	20	24	92	156
7月	6	8	4	6	0	0	10	11	45	201
9月	7	13	9	4	2	1	15	19	70	271
10月	25	5	7	7	6	2	3	6	61	332
11月	20	5	10	7	9	4	17	9	81	413
12月	7	7	11	5	3	2	2	13	50	463
1月	23	14	4	14	3	3	20	16	97	560
2月	22	13	10	16	7	5	2	15	90	650
3月	1	3	8	3	2	2	9	1	29	679
累計	125	94	76	73	52	20	109	130	679	

東京校歌祭について

東京校歌祭実行委員

墨田川17回 清澤 健一

平成25年度21回校歌祭は10月5日(土)13時、日比谷公会堂にて開催されました。朝から十数年ぶりの雨でしたが約50名の大勢の参加がありました。雨は昼過ぎにはこやみとなり、戸外でのリハーサルも傘をさして行い、井上墨水会会長の学校紹介の後、応援歌3番までと校歌4番までの全部を持ち時間9分で歌いました。

今回の出演は4時からの総会を考慮し、2番目の出演となり、時間的ゆとりもでき、他校の校歌も聴くことができました。

今年の出演校は、八王子工業校が同窓会の承認が取れず参加できなくなり高校は16校となりました。特別出演として東大、一橋大、早稲田、慶応の4大学が昨年と同様に参加し、合わせて20校でした。

現役の生徒の参加は、毎年出演の戸山・新宿高校に加え、小石川中等教育学校(小石川高・府立5中)の初めての参加がありました。

また、ブラスバンド出演の生徒も加えると、多くの現役生が協力してくれました。

今回の会場選定に当たっ

て、日比谷公会堂の耐震補強工事が進まず、「使用するなら参加者の名簿をそろえて「貸すけど危ないよ」と言われたため公会堂使用を断念しました。テアラ江東、墨田トリフォニーホールなど多くの公的会場使用抽選に申し込みし、やっと杉並公会堂が確保できました。

次回22回校歌祭は11月1日(土)です。多くの人の参加をお願いします。





一般財団法人

七星会運営のご報告

理事 墨田川3回 井上 常一

ご承知の通り法人が所有する「七生・楽水」の二寮は一昨年より新組織一般財団法人としての移行手続きも終わり、従来の組織より運営が強化され、新法人は評議員の地位が従来より重くなり、その結果理事と評議員の役割分担がはっきり分かれ、評議員は会務の全般を担い、理事、監事は、評議員会の決議によって選任されることになったので、理事が業務を執行し、財団の運営を行うことになっていく。

新法人施行後の運営は今のところ過誤なくスムーズに経過しているが、寄付に頼っている財政については今後とも美汀会、墨水会の両者が運営に協力し、今後の発展に務めなければならないと思っている。

さて、昨年の状況であるが、経営の状況は二寮共に収支均衡がとれた状態であるが、両寮共に四十年を経過した木造建物である関係上、毎年何等かの修理が発生し、その維持管理に毎年悩まされている。

特に二度目の強風のためタン張りの陸屋根の三分の二が破損し、一部部屋にも雨漏りが発生し、修理見積百五十万円以上の損害が発生した。この被害は幸いに損害保険で九十%カバーすることが出来るのでほととしている。なお、このほか南面の壁の塗装がはがれているので全面塗り替えを行いました。楽水寮は管理人の網代氏に依頼している。室内の清掃やメンテナンス、宿泊者の世話等は、総て管理人網代氏にお任せしてあるので、管理費等の費用は別としても運営は滞りなく行われている。

しかし夏の一定時期のみ開寮する軽井沢の七生寮には管理人を置いていないので、法人の理事が、トラブル発生の際に都度出向かなくてはならない。建物と周辺の全体管理は星野リゾートにお願いしているが、細かい内容にはタッチしないので、当方でチェックを行う他ない。昨年は水道の水漏れが二度ほど発生している。また建物中央の屋根部分と厨房にかなり大きな穴があき動物など侵入される恐れがあるので、開寮前に本多建設さんに依頼し修理して戴いた。また浄化層のコンプレッサーが経年劣化したので交換するなど毎年メンテナンスにはかなりの出費となっている。その他、部屋の壁がよごれているので各部屋の壁紙をすべて交換しました。開寮は七月中旬から八月下旬の約一ヶ月であるが、二年前から経費の節減のため東京からの出張調理会社をやめ、墨水会の役員が交替で寮の管理・清掃とケータリングの食事を用意することになったので、昨年も谷澤事務局長、清澤副会長のお二人が管理人として、交替で寮番を務められた。今後の運営は地元から管理人を依頼する方法が良いと考えている。なお星野リゾートの管理契約は一年毎の更新になるので、毎年六月頃海谷評議員と谷澤理事の両名が出向き契約している。楽水寮は網代管理人との一年契約を行っている。今年四月に契約している。

なお、両寮共に一般の宿泊客はまだまだ少ないので、今年はパンフなどを新しく作成し、大いにPRに努めたいと思っています。



七生寮視察旅行

墨田川15回 加藤多恵子

恒例となっている軽井沢七生寮視察旅行は今年度、8月25日、26日に行われました。クラスメートや同期の有志、先輩や友人等9名で前日から軽井沢入りした私達はトンボの湯で汗を流し、翌日は白山から横手山を巡り夜の懇親会に合流しました。総勢25名の大宴会。寮には在学中に行つて以来の人や、海に参加したため軽井沢は初めてという人もいて学生時代の話に花が咲き、楽しい食事会になりました。夜のお酒を除けば寮生活は学生達と同じ。高校生にもどった気分でおしゃべりは続きます。体力に現実を自覚させられはしますが、。

翌日は朝食後解散。ゴルフ組と旅行組に別れ、我々旅行組は清里から小淵沢を回り帰途につきました。

軽井沢はもちろん、ちよつと足を延ばせば見所が沢山あり、猛暑を逃れてゆつくり過ごすには最適な所です。皆様もクラス会や家族、友人達と七生寮を利用して楽しい休暇を楽しみ、リフレッシュされてはいかがでしょう。

尚、今年は生徒達が寮を使用しないため、7月19日より8月23日まで一般開放されますので、多くの方の御利用をお待ちしております。





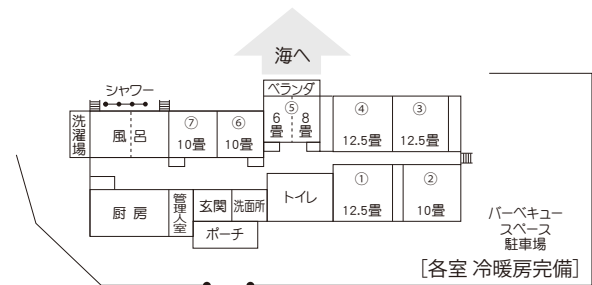
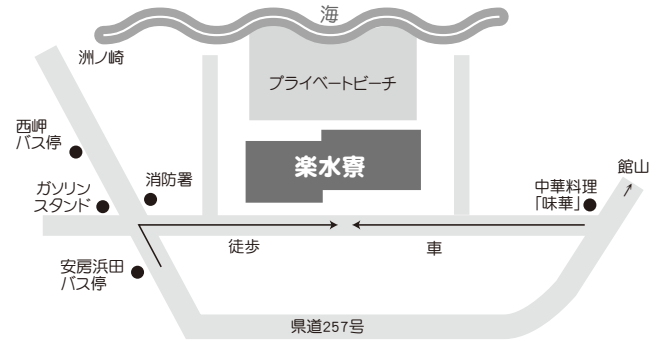
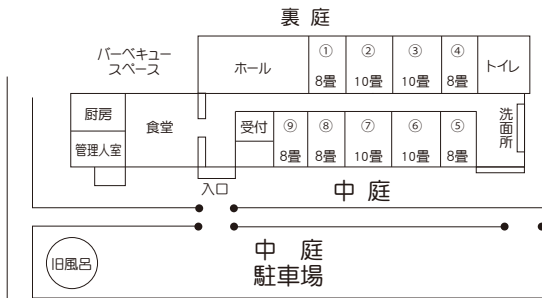
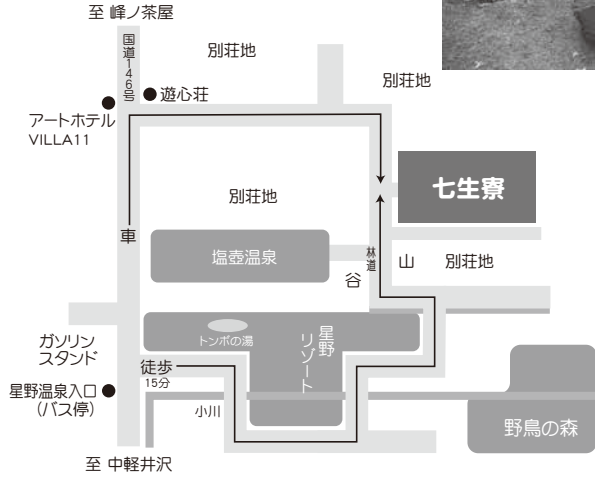
軽井沢

七生寮



楽水寮

房総館山



〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字赤岩2148
 電車 東京駅より新幹線あさま号で1時間35分
 「軽井沢」駅下車、西武高原バス(草津温泉行)20分、
 又は中軽井沢駅よりバス10分、
 「星野温泉入口」より徒歩10分
 自動車 国道146号峰の茶屋方面
 アートホテルVILLA11
 城北信用金庫看板(遊心荘)右折1分

〒294-0303 千葉県館山市浜田160
 電車 東京駅よりビューさざなみ号2時間13分
 内房線「館山」駅下車、JRバスにて30分、
 「安房浜田バス停」より徒歩5分
 バス 東京駅八重洲口より急行バス館山行1時間45分
 自動車 バス通り(房総フラワーライン)洲崎方面
 中華料理屋(味華)脇右折3分

利用期間 7月19日から8月23日まで
申込方法 6月1日より7月18日までは学校にて予約
 受付を行います。
 学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
 7月19日以後の申し込みは直接寮へ
 寮受付 ☎0267-45-5672
料金 (一泊二食付き)
 大人(中学生以上) 5,000円
 子供(小学生以下3才以上) 4,000円
 素泊 大人 3,000円
 子供 2,000円
 休憩 1,000円
 料金は業者も含め検討中です。変更になる事もあります。
 申込時に確認してください。

利用期間 原則として通年で利用いただけます。
申込方法 7月19日より8月31日までは
 寮受付 ☎0470-29-0127 (管理人 網代)
 その他の期間、及び6月1日より7月18日
 までの夏期予約は
 学校受付 ☎03-3611-2125 (小荷田)
料金 素泊
 7・8月 大人 3,000円(中学生以上)
 子供 2,000円(小学生以下3才以上)
 休憩 2,000円(風呂代含む)
 7・8月以外 大人 2,000円
 子供 1,000円
 休憩 1,000円(風呂代含む)
 食事については、寮で注文してください。(お弁当・刺身の舟盛等)
 尚、庭にてバーベキューを行う事が出来ます。(バーベキューセッ
 ト使用料1台500円)又、厨房も利用出来ます。(使用料1日500円)

楽水寮の現状

墨田川15回 加藤多恵子

今年度の楽水寮は修繕に次ぐ修繕で大変な年でした。

まず5月に天井の張替と外壁の塗装をしていただき、きれいになったと喜んでいたら、10月の台風に見舞われま

した。海側の屋根が飛ばされ、雨漏りのため押し入れや畳に被害が及び、改修に200万円近くの費用がかかりました。幸い保険で大半がカバーされました。

修繕が済み大変綺麗になりましたので、是非お出かけ下さい。

自然災害の多い年でしたが、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

この台風で我がプライベートビーチにタンカーが座礁し、タグボート3台でようやく曳航されたという珍しい事故がありました。



同期会・クラス会

七中18回

七中18回卒

同期会

中島 藤五

私たち七中18回生は平成25年5月11日例年の様に一ツ橋の日本教育会館で同期会を開きました。ここ数年毎年5人くらいの同期生が死亡するので、いつも60人前後集まっていた会も年ごとに出席者が減ってこの度は24名でした。それでも「米寿前後の同期生が20人も集まるとは」と驚かれるようです。

私たちの卒業は昭和19年3月敗色濃厚な戦争末期、進学先の半分は全国の高校、高専、東京の学校でも工場へ動員、その工場も空襲の被害で移転。東京の家は戦災でやられ家族は知り合いを頼って地方へ移動。電話など無いに等しく、鉄道は公用でなければ長距離切符を売ってくれない。友達の手紙には「もう会えないかもしれないが」と書いてあるのが当たり前でした。

そんなわけで敗戦の混乱がいくらか落ちついた昭和26年、ともかく連絡のとれる人だけでも集まったのが最初で、昭和33年、46年の空白はあるものの現在まで殆ど毎年開催しております。同期会を足掛かりに、少人数のゴルフの会、旅行会、飲み会もありましたが老齢化とともにいずれも消えてしまつて、現在健在なのは昨年の「墨水会だより」に井上会長が紹介してくれた百花園の忘年会だけです。

この会は有志の会で、同じメンバーで正月は鬼怒川へ一泊旅行、春は隅田川の花見を



しています。平成4年からですから20年を越えます。顔ぶれに出入りはあっても20人前後でしたが、この度は12人になってしまいました。過去に出席して亡くなった人を数えたら20人近くでした。

「来年の事を言うと鬼が笑う」と言う言葉を実感しますので、「今年はどうする」と言うけれど、「来年はどうする」とはお互いに言わない事にしています。

「人は生きていく限り 生きぬかなきゃいけない、面白がつてね」とは映画監督 新藤兼人85才の時の言葉だとか。見習いましょう。

2013・12・13

墨田川4回

昭和二十七年卒同期会

三木 鉄也

私達第四回卒業生は戦後最初の入学生で昨年は当校創立九十年そして私達は卒業後六十年その上各人八十年の傘寿を迎えました。

入学時は戦災で焼けて校舎も無く、近くの言問小学校に間借りしての入学でした。

現在では中高一貫等と言われておりますが私達は一時期を除いて六年間男子のみでした。今では当時の担任の先生方も殆どお亡くなり同期生も大方の人が亡くなりました。

卒業五十年の時は参加者も百名からおりましたが十年後の今回は三十二名の参加で今後は各クラス毎に開く様に定め最後の同期会と相成りました。

最後に毎回ながら全員にて校歌を斉唱し散会致しました。



墨田川7回
昭和三十年卒
D組クラス会
 横山 松雄

昭和三十年卒D組クラス会は、昨年八月の軽井沢・七生寮宿泊旅行以降、五月の「新緑と温泉泊」十一月の浅草神谷バーにおける年二回のクラス会を定着させています。

平成二十五年五月下旬、箱根木質温泉KKR宮ノ下に宿泊し、温泉入浴を楽しみ夕食後も深夜までの歓談で、参加者十四名は大満足でした。

平成二十五年十一月下旬の浅草神谷バーにおけるクラス会は十四名の参加で、お互いに元気であることを確認し、健康維持や趣味の追求に談論風発の様相でした。

平成二十六年五月下旬の「新緑と温泉泊」は、奥日光の「休暇村日光湯元」泊が決定し、名実ともに奥日光の新緑と温泉を楽しむことにしています。



墨田川13回
墨田川高校13期
同期会を開催
 G組 横井 正男

去る4月20日、都立墨田川高校13回生（昭和36年卒業）の同期会が墨田区横網の「第一ホテル両国北斎の間」において開催されました。

早いもので、今年卒業後52年目の年、今回の開催は卒業後12回目の同期会となります。我々が還暦を迎えるまでは5年毎に同期会を開催していましたが、その後は3年毎に短縮し開催しています。今回は古希を迎えて最初の会合で、出席者数はA組からG組までの7クラスで合計80名を超え、大変賑やかにかつ和やかな宴となりました。

在学中の3年間を受持つて頂いた恩師の多くの方々、他界され友の中にも物故者が徐々に増えており、気持ちの上では少々寂しくなってきました。

しかし、会が始まると、懐かしい思い出・近況報告・友の消息・加齢に伴う自身の健康



賑やかな会場風景

康の話等々・・・話は途切れることなく花が咲き、大いに盛り上がりました。引き続き開催された二次会にもほとんどの出席者が参加し、大変な盛り上がりです。二次会を含め5時間という長丁場でしたが、時間は瞬く間に過ぎてしまいました。

最後に、名曲「墨田川高等学校校歌」を全員で合唱し、お互いの健康を祈りつつ、3年後の再会を約して惜しみながらの散会となりました。幹事の皆さんご苦労様でした。

墨田川15回
昭和三十八年卒、
初の同期会
 B組 山口 哲夫

平成二十五年十月十八日、上野の東天紅で昭和三十八年卒業の同期会が開かれた。集まったのはA組からG組まで七クラスの七十二名。卒業後初めての同期会なので、同級生以外はほとんどが五十年ぶりの顔合わせだが、誰が誰やらまったくわからない。

まずはクラス別に分かれて歓談。我がB組は十四名が参加。卒業後初めて会う友人もいたが、七年前にクラス会を行なっているの

で、すぐに打ち解けて話が盛り上がる。

我々が入学したのは六十年安保の年、六月に国会前で樺美智子さんが亡くなって、休み時間に安保の是非をめぐって議論したり、銀座の大通りを埋め尽くしたフランスデモに参加したりするなど、政治への関心が高い者が少なくなかった。五十年経っても、それは変わらないようだ。

「憲法九条があったから、俺たちは戦争で一人も死ななかつた」

誰かがそう言うと、みんな頷く。そして孫たちのためにも九条を守り、原発をゼロにしようと話し合う。

ほかのテーブルを回ってみると、何人か見覚えのある顔が。中学校の同窓生だ。さらに



時間をさかのぼって、恩師や級友の消息を確かめ合った。

会いたいと思っていた友人とも話ができた。一人は卓球部の奥平君。君のほうが俺より強かつた」と言うと、「まあな」と嬉しそう。すっかり貫禄がついた体型になって、どんな仕事をしてきたか話してくれた。おたがいの業界が近く、どこかですれ違っていたかもしれない。

もう一人は高三の時に文通していた人。五十年ぶりの邂逅に思わず握手。わずかな時間だったけど、カウンターでワインを楽しんだ。

初めての同期会、知らない人が多くてどうなるかと思つたが、二時間ではとても足りないほど、幸福な気分を満たされた半日だった。

在学中の「思い出」

墨田川10回昭和33年卒

E組 坂田 勝康

我々が入学した昭和30年は中学卒の50%がやっと高校へ進学出来る時代でした。首相は岸信介。安保問題が学生運動の中心となり高校生にも多少影響を与え当校の運動会の仮装にも我がE組からハリボテの車から挨拶している岸首相の人形を出しました。「墨水会だより」の19号を拝見したら、同窓の田中君が記してきてましたが担任は中島先生。先生は、推理小説の評論、批評家として第一回江戸川乱歩賞を取りペンネームは「中島河太郎」：ここに書くまでもなく知っている人は大勢いらっしやると思います。その先生がホームルームの時間にはいつも早川書房が出していた月刊の「ミステリーマガジン」より面白い小説をピックアップして読んでくれました。その影響がE組の男子生徒の何人かは、毎月発行される同誌を小脇に抱えて校内をよく歩いていたよう記憶してきます。学校の立地条件が良かったせいか再々悪友と授業をさぼって墨堤近くの卓球場でよく遊びました。そのおかげか悪友5〜6人全員一浪となりました。その卓球場へ行く時は、学校の裏門を出てすぐ細い路地に入る：そこは「鳩の街」いわゆる「青線」です。とくに夏はその道を通る時はお姉ちゃん達が竹の長いベンチに何人かが座りシミーズ一枚で団扇で涼を取りながら「学生さん帰りに寄りなよ！」なんて声を掛けてきます。当時はまだ人間が未熟だったので走って逃げた事がたびたびありました。担任の中島先生は永井荷風の澤東綺譚の町「玉の井」(現東向島)に住んでいらっしやいました。学校の近くには「鳩の街」と「玉の井」、ちよつと大川を渡れば「吉原」：：：もう少し早く生まれていればなんとなく今思っています。なんと、良い場所に学校があつたのに当時の学生は比較的まじめであつたのです。まだ墨堤つながりの話の一つ、宮城前広場での事件、ハンドボール部の活躍(関東大会出場)等：あります。あまり長いとお目目のお邪魔、またの機会にいたします。

訃報

三好正也氏

七中20回

三好正也氏は昭和20年3月7中卒業後早稲田大学政経学部を経て同大学院に進まれ、卒業後設立間もない経団連事務局に入局され、1988年から97年の10年間事務総長として、経団連の政治献金の斡旋廃止などに取組まれました。

その後JWAVEの社長兼会長なども務められました。

昨年始めより病気のためご療養中でしたが、12月14日腎不全のため惜しくも亡くなりました。

なお、墨水会には度々ご寄付を頂戴し会の活動に貢献されました。

ここに三好氏のご逝去を悼み、心よりのご冥福をお祈り申し上げる次第です。

白田守夫氏

墨水会相談役

七中21回



白田守夫氏は七中卒業後教育大学(現筑波大学)を卒業後、教職につき本所、南葛飾高校など都立高校の教頭、学校長を歴任され、退職後は墨水会の副会長として平成21年まで同窓会及び母校の発展のため多大な尽力をされました。

一昨年より病気のためご療養中でしたが、ご親族の手厚い看護も空しく、昨年7月8日に惜しくも逝去されました。

ここに哀悼の意を表すると共に、氏の長年のご尽力に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

なお墨水会ではご霊前に盛花を奉呈し、井上会長外多数の会員が弔意を捧げました。



平成25年度(第65回生他)大学・短大合格状況

国公立大学

合格者延べ人数

大学名	現役	過年	計
埼玉大	1	0	1
千葉大	2	0	2
電気通信大	2	0	2
東京海洋大	1	0	1
埼玉県立大	1	0	1
首都大学東京	3	0	3
山梨県立大	1	0	1
国公立大学計	11	0	11

私立大学

合格者延べ人数

大学名	現役	過年	計
早稲田大	5	0	5
慶應大	4	0	4
上智大	1	0	1
東京理大	9	0	9
上記4大学計	19	0	19
明治大	10	0	10
青山学院大	1	0	1
立教大	7	0	7
中央大	11	0	11
法政大	18	1	19
学習院大	4	0	4
上記6大学計	51	1	52
関西大	6	0	6
立命館大	0	2	2
上記2大学計	6	2	8
成蹊大	12	0	12
成城大	2	0	2
武蔵大	1	1	2
明治学院大	13	1	14
上記4大学計	28	2	30
日本大	39	4	43
東洋大	38	7	45
駒澤大	3	0	3
専修大	7	1	8
上記4大学計	87	12	99
亜細亜大	10	0	10
跡見学園女子大	3	0	3
桜美林大	1	0	1
大妻女子大	3	0	3
学習院女子大	2	0	2
神奈川大	2	0	2
鎌倉女子大	1	0	1
川村学園女子大	1	0	1
関西外語大	3	0	3

大学名	現役	過年	計
神田外語大	2	0	2
関東学院大	2	0	2
共立女子大	2	0	2
杏林大	5	0	5
国立音大	0	1	1
工学院大	6	0	6
國學院大	7	0	7
国土館大	15	0	15
駒澤女子大	1	0	1
産業能率大	1	0	1
実践女子大	2	0	2
芝浦工大	7	0	7
淑徳大	2	0	2
順天堂大	2	0	2
城西大	5	0	5
昭和女子大	5	0	5
女子栄養大	1	0	1
白百合女子大	1	0	1
杉野服飾大	1	0	1
聖徳大	13	0	13
洗足学園大	1	0	1
創価大	1	0	1
大正大	5	1	6
大東文化大	6	0	6
高千穂大	5	0	5
拓殖大	1	0	1
玉川大	8	0	8
千葉工大	14	1	15
千葉商大	4	0	4
つくば国際大	1	0	1
帝京大	10	0	10
帝京科学大	6	0	6
帝京平成大	5	0	5
桐蔭横浜大	1	0	1
東海大	12	0	12
東京医科大	1	0	1
東京医療保健大	2	0	2
東京家政大	6	0	6
東京家政学院大	5	0	5
東京経大	5	1	6
東京工科大	12	1	13
東京国際大	1	0	1
東京女子大	2	0	2
東京聖栄大	1	0	1
東京成徳大	1	0	1
東京造形大	0	1	1
東京電機大	15	2	17

大学名	現役	過年	計
東京都市大	4	0	4
東京農大	4	2	6
東京福祉大	4	0	4
東京未来大	1	0	1
東邦大	10	0	10
獨協大	13	0	13
二松学舎大	2	0	2
日本医療科学大	1	0	1
日本女子体大	3	0	3
日本女子大	3	0	3
フェリス女大	1	0	1
文教大	6	1	7
文京学院大	4	0	4
武蔵野大	7	0	7
武蔵野美大	1	2	3
明海大	2	0	2
明治薬科大	1	0	1
明星大	1	0	1
目白大	4	0	4
立正大	4	2	6
流通経大	1	0	1
麗澤大	3	0	3
和光大	1	0	1
和洋女子大	7	0	7
Humber College	1	0	1
私立大学計	517	32	549

短期大学

合格者延べ人数

短大名	現役	過年	計
青山学院女短	4	0	4
大妻女大短大部	1	0	1
淑徳女短	1	0	1
聖徳女短大部	2	0	2
創価女短	1	0	1
貞静学園短	1	0	1
戸板女子短	1	0	1
東京家政女短	1	0	1
東京農大短大部	6	1	7
日本歯科大東京短	1	0	1
日本大短期大	1	0	1
短期大学計	20	1	21

現役の欄は平成25年3月に卒業した第65回生の実績です。過年の欄はそれ以前に卒業した者で、連絡のあったもののみ計上してあります。

- ◎短期大学(計7名)
- 東京成徳短大・戸板女子短大・山野美容芸術短大・女子栄養短大・日本歯科大学東京短大・東京家政短大・聖徳大学短期大学部

- ◎国立大学(計5名)
- 千葉大学 教育学部
 - 首都大学東京 健康福祉学部(3)
 - 首都大学東京 都市教養学部
- ◎私立大学(計63名)
- 慶應義塾大・上智大(3)・東京理科大(3)・学習院大(2)・立教大(2)・中央大(2)・法政大(4)・学習院女子大・芝浦工業大(3)・順天堂大・東京家政大(3)・東京農工大・東邦大・北里大(2)・成城大・成蹊大・武蔵大(3)・武蔵野大(2)・明治学院大(3)・文京大・國學院大・獨協大・日本大・東洋大(3)・文京学院大(2)・跡見学園女子大・帝京科学大・帝京平成大(2)・日本女子体育大(2)・淑徳大・洗足学園音楽大(2)・国際武道大・聖徳大(2)・立正大・神奈川大・共立女子大

平成25年12月時点での
現3年次生(第66期生)の
主な進路状況

これまでに指定校推薦・公募推薦・AO入試等で、次の大学・短大に合格者が出ています。

大学入試センター試験(1月18日・19日)後、私立大学の一般入試、国公立大学の個別試験が始まりますので、合格者数はさらに増えていきます。(カッコ内は複数合格者がいる学校の人数)

平成25年度 部活動実績報告

生徒指導部 部活担当 百瀬 健一(再任用教諭・墨田川23回)

今年度は昨年度にも増して、場所・時間を積極的に協議し奪い合い・譲り合い元気に活動しています。また、学校の諸活動への協力は、特定の部に限られていましたが、現在では、ほとんどの部が協力し内容を高めています。例えば「挨拶の和」をテーマに朝の校門での「挨拶運動」に全部が参加し、「七高」を盛り上げています。

皆様の後輩在校生が「七高魂」を引き継ぎ伝え、部活だけではなく学校生活のすべてに励み、その過程での笑顔や涙や汗を感じていただければより幸いです。

運動部

剣道部

- ・東京都高等学校春季剣道大会兼関東大会団体東京都予選 男子団体ベスト64・女子団体ベスト32
- ・東京都秋季都大会 男子団体ベスト32 女子 都大会進出
- ・墨東杯争奪剣道大会 男子総合 優勝 女子総合 準優勝
- ・全国高等学校剣道大会都予選 男子団体 都大会進出 女子ベスト32
- ・東京都高体連 第一支部大会 1年男子団体 優勝 3年男子個人 2位
男子選抜個人 3位 女子選抜個人 3位

柔道部

- ・高体連関東大会 予選52kg級 第3位 都大会進出 都ベスト16
- ・インターハイ 都ベスト16 都大会出場
- ・東京都柔道部 優秀選手 3年 千川 香菜子

軟式野球部

- ・春季関東大会 都大会 第3位
- ・夏季大会 4回戦 進出
- ・秋季大会 3回戦 進出

ボート部

- ・インターハイ都予選優勝(種目：女子舵手付クォドルプル)
- ・インターハイ全国高等学校総合体育大会出場準々決勝進出
- ・関東高等学校選抜大会都予選3位(種目：女子舵手付クォドルプル) 関東高等学校選抜大会出場
- ・3年 亀井恵利沙 国民体育大会出場 ジュニアオリンピックカップ出場
(種目：少年女子舵手付クォドルプル)東京国体 第5位

文化部

音楽部

- ・第80回 NHK全国音楽合唱コンクール東京都予選「金賞」
NHK全国音楽合唱コンクール東京都本選「優良賞」
- ・第37回 全国高等学校総合文化祭「長崎大会」東京都代表 合唱部門 「文化連盟賞」

生物部

- ・日本生物教育会 全国大会 ポスター発表 「優秀賞」
- ・JST(科学技術振興機構) ポスター発表
- ・サイエンス・キャッスル2013東京大会 ポスター発表

吹奏楽部

- ・ 環境省「全国星空継続観察」に参加
- ・ 東京都高等学校吹奏楽コンクール 金賞
- ・ 東京都吹奏楽コンクール出場
- ・ 管楽合奏コンテスト全国大会 優秀賞・ヤマハ賞
- ・ ジャズ&ポップスコンテスト全国大会出場
- ・ TAMAアンサンブルコンテスト 金賞・審査員特別賞
- ・ 東京都高等学校吹奏楽連盟アンサンブルコンテスト 金管八重奏 金賞・木管八重奏 金賞

水泳部

- ・ 全国高等学校総合体育大会【インターハイ全国大会・長崎市民総合プール】

女子400m個人メドレー	上田桜子	4位	入賞
女子400m自由形	上田桜子	4位	入賞
	櫻井美乃	31位	
女子800m自由形	櫻井美乃	20位	
女子50m自由形	布施谷結花	24位	
女子100m自由形	布施谷結花	15位	
女子400mリレー		13位	布施谷結花、勝治菜々、櫻井美乃、上田桜子
女子400mメドレーリレー		16位	片山友希、上田桜子、中村綾花、布施谷結花
- ・ 第68回 国民体育大会水泳競技大会 東京スポーツ祭2013年【東京国体】

少年A 女子200m背泳ぎ	布施谷結花	12位	
少年A 女子400m自由形	上田桜子	8位	入賞
少年A 女子400m個人メドレー	上田桜子	2位	入賞
少年A 女子400mリレー		2位	入賞
- ・ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会【夏のJO】

チャンピオンシップ 男子50m自由形	中島 輝	19位	
--------------------	------	-----	--
- ・ 関東高等学校水泳競技大会【関東大会】

男子1500m自由形	小野航太郎	34位	
女子50m自由形	布施谷結花	8位	入賞
女子100m自由形	布施谷結花	5位	入賞
女子400m個人メドレー	上田桜子	2位	入賞
女子400m自由形	上田桜子	3位	入賞
	櫻井美乃	17位	
女子800m自由形	櫻井美乃	9位	
女子400mリレー		6位	入賞

予選：布施谷結花、松葉知美、千葉莉里、勝治菜々 決勝：勝治菜々、布施谷結花、櫻井美乃、上田桜子

女子400mメドレーリレー		11位	片山友希、上田桜子、中村綾花、櫻井美乃
---------------	--	-----	---------------------
- ・ 東京都春季大会(春季大会)学校対抗 女子総合5位

女子200m個人メドレー	優勝	
女子200mメドレーリレー	3位	入賞
- ・ 東京都高等学校選手権大会(都高校大会)学校対抗 女子総合5位

女子50m自由形	2位	入賞
女子100m自由形	優勝	
女子400m個人メドレー	2位	入賞
女子400m自由形	優勝	
女子400mリレー	3位	入賞
- ・ 東京都高等学校新人大会(新人戦)学校対抗 女子総合5位

女子200m背泳ぎ	2位	入賞
女子50mバタフライ	3位	入賞
女子400mリレー	3位	入賞

第17回 寄付金一覽

平成25年1月〜平成25年12月末日

会計 墨田川10回 赤津 吉延
墨田川15回 谷澤 尚樹

今回は百三名の方々と四団体より百六十万五千七百二十六円(利息も含む)の寄付を頂戴いたしました。毎年(財)七星会へ二百万円(の寄付をしておりますが、その総額は学校への寄付も含めて四千万円になりました。平成七年より行われる様になりました)の寄付も皆様のご協力により母校に多大な貢献をしております、これからも有意義に使わせていただきますので今後共、ご協力下
さいます様宜しくお願い申し上げます。

府立第七中学校 第18回

鈴木 文男 石井 善次郎 岩瀬 彰啓 氏橋 幸次郎 梅田 好男 恵畑 欣一 大久保 喜市 大曾根 弘一 坂本 俊雄 坂巻 俊雄 白井 忠彦 鈴木 文彦 田中 文彦 巽保 三充 鶴間 藤一 戸谷 是公 中島 藤五 羽鳥 博愛 花沢 正造 広瀬 栄一 堀松 秀成 三利 信成 毛利 英三 森野 郁博 藪下 澄雄 津村 澄雄

都立墨田川高等学校 第20回

第23回

都立第七高等学校 第1回

内田 勝利 杉野 鎮久 杉村 良哉 清水 秀夫 片田 和男 中井 善夫 大木 善夫 江口 卓之 石塚 松雄 荒川 博之 齋藤 淳博 紅谷 誠一 木村 庸雄 岡田 俊夫 本間 三隆 井川 三郎 島谷 三郎

都立墨田川高等学校 第2回

第3回

第4回

第5回

大滝 敏夫 平林 盛得 木島 威也 佐藤 宏 須藤 健児 秋山 昭八 笹本 康市 上原 俊 大澤 信玄 渡辺 政雄 洪谷 政一 鈴木 徳次 井上 常一 中村 良吉 遠藤 秀一郎 木塚 靖夫 米山 靖夫 島村 元昭 三木 鉄也 亀野 正一 岡本 道夫 釜井 節夫

第6回

第7回

第8回

第10回

第12回

第13回

池田 勝英 小師 克之 杉本 陽子 須賀 きよ子 A組 一同 D組 一同 麻山 和正 関和 亨 内田 忠男 比留間 光 比留間 光 清宮 光 難波 直人 中村 昭人 船戸 沖一 伊藤 昭浩 田中 正昭 菊池 正昭 中村 圭一 村田 和夫 山澤 皓二 青木 皓夫 岩本 皓夫

第15回

第16回

第18回

第22回

第30回

旧教職員

(株)東京コカコーラボトリング

岩崎 悦康 加藤 多恵子 3Cクラス 石井 敏子 谷澤 尚樹 佐野 裕子 専田 三枝子 吉川 恵則 鶴田 耕一 齊藤 よし子 宮本 勇人 倭本 康雄 有賀 康修



「墨水会だより」

第21号

発行：墨水会事務局
発行人：井上 常一
編集人：清宮 胖
墨田川高校内墨水会事務局
〒131-0032
墨田区東向島3-34-14
電話：03-3611-2125(代)
事務局代表：谷澤 尚樹

編集後記

創立90周年行事もすみ、100周年にむけてのスタートの年となりました。

広報委員会一同、更なる紙面の充実をはかるべくがんばっております。

卒業生の皆様には本紙に対するご希望やご提案などございましたら、ご一報いただきたくお待ちいたしております。

広報委員長 墨田川10回
清宮 胖

